Aブロックの「愛」すべてです。

半年の熱い闘いが今日終わる。
ネタで行くのか、それとも人生を賭けての大勝負か。
お題は伝統の「愛」。

さいごに笑う者は誰？

答えは作品のあとの解説にてどうぞ！

A-1

愛の方程式

$$\int 愛 \, dt$$

＝マンネリ

愛と勇気

雷鳴が鳴る。激しい雨が降り注ぐ、深い森の中だ。厚い雲に光は遮られ、暗黒の世界がそこにあった。生命の営みを感じさせない、何もない世界だ。

しかし唯一、大きな城がある。そこから漏れる光はほとんどなく、辺りの暗闇と一体になって、どっしりと静かに建っている。

暗黒を断ち切るように、機械音が鳴り響く。城の主は、これまで様々なマシンを作り上げてきた。それも殺人マシンである。目的は一つ。国の英雄を殺すため。

子供の元気な声が聞こえる。太陽の光が降り注ぎ、町は活気に溢れていた。

ここには一人の青年が住んでいる。町で一番の人気者な彼は、町の住人たちの尊敬のまなざしを浴びながら、今日も人々の中心に、ほほえみながら立っている。

楽しい平和な時をかき消すように、爆発音が鳴り響いた。町の英雄は、これまで様々な危機から町を救ってきた。理由は一つ。それが正義だから。

男は殺人マシンに乗り込み、青年に襲いかかるが、青年は強かった。殺人マシンをも破壊した。これでまた、町に平和が訪れる。町の住民は歓喜の声を上げた。

奇襲を仕掛けた男が、自分の無能さに悲しくなり、一言を残して逃げるのはいつもの事であった。

『バイバイキーン』

A-3

今年の漢字

２００５年の今年の漢字に「愛」が選ばれた。

２００５年の漢字に「愛」が選ばれたのは、『身近な「愛」から世界規模の「愛」まで、「愛」を育む大切さを感じる中、「愛」が足りない事件が多発した年』であるからだ。

これまでの十年間暗い印象の漢字ばかり選ばれていたが、心暖まる印象の「愛」が選ばれたと言われている。しかし、「愛」が選ばれた理由にもあるように、日本のどこかで愛が育まれているが、他の所では少年犯罪やマンション耐震強度偽装問題など愛の足りない事件がたくさん起こっている。やっと明るい印象を持つ漢字が選ばれたが本当の意味で明るいわけではない。今年の漢字は本当の意味で明るい漢字になってほしいものである。

リサイクルショップ

友人から「また新しいバイトを始めた」というメールが来たので、俺は早速冷やかしに行くことにした。

あいつの非常につたない案内のメールを頼りに彷徨うこと三十分、なんとか無事にたどり着いた。一体どこでバイトをしているのかと思えばごく普通の愛の中古販売店だった。若干後悔。というか、前回のファミレスで懲りたと思ったのにまた接客かよ。

いつまでも店の前に突っ立ってても不審者に間違えられるだけなので、俺はさっさと中に入る。新入りの仕事はレジ打ちに違いないだろうと思ってレジを見たのだが、あいにく四十代くらいのおっさんの姿しかなかった。店の奥でなんかやってるんだろう。俺は暇つぶしに店の中を適当に見て回ることにした。

新作のコーナーには明らかにカップルだと思われる男女何組もが、嬉々とした様子で純愛やら家族愛やらを見ている。実にほほえましいのだが、同時に激しく敗北感を襲われる。だから入りたくなかったんだよ。その一方で、いい年したおっさんが嫌に真剣な目つきで仕事愛の棚を物色している姿も見える。いたたまれない。処分品と書かれたカートには、独占愛、略奪愛、自己愛、マザコンとかロリコンとかの各種コンプレックスが平積みにされている。いや、いくら数万とは言えさすがこれはいらないだろ。

そうこうしていると、店員から声をかけられた。見ると、店のロゴ入りエプロンをつけた友人だった。無駄に似合っている。友人は良く来たな豪快に笑いながら言って、俺を休憩室に連れ込んだ。いいのかよ。しかもお前いま仕事中じゃないのかよ。

で、コーヒー片手に色々と愚痴を聞かされた。なんでも、最近は熟年離婚をする夫婦がよく夫婦愛を売りに来ているらしい。在庫過多の上たいてい質が悪いため断っているらしいんだが、そういうのに限ってやたらと押しが強いらしい。そいつは、愛の押し売りは勘弁してほしいよ、とため息混じりに言っていた。お前がそれを言うな、というつっこみは控えておくことにした。

一時間ほどだべった後、そろそろ仕事だ、というそいつの言葉で俺は部屋を追い出された。そのときついでと言ってチラシを渡された。いぶかしげに覗きこむ。

『今月は買い取り強化月間！　どこよりも高く買い取ります！
今月の高値買取愛は、教育愛、愛国心、博愛、郷土愛です。
※　大きさや歪み具合によって減額する場合がございます。あらかじめご了承ください』

確かにどれも数十万という良い値で買ってくれるみたいだが、どう考えても俺とは無縁だろう。どうしろというんだ。

用も済んだし帰ろうと思っていると、ふと仏頂面をしている妹の顔が浮かんだ。あいつに愛嬌とか愛想の一つや二つ買って帰ったところでばちは当たるまい。俺は財布の中を思い出しつつ、愛の物色を始めることにした。

恋の予告編

—好きな人はいる？
あのとき、あいつは突然俺にそう言った。あいつと俺は幼馴染。幼稚園のころから知っている。まさか大学まで同じなるとは思ってもいなかった。食べることが大好きで、今まで恋愛なんかに興味を示してこなかったあいつが、いきなりそんなことを俺に訊いてきた。ビックリした俺は、戸惑いを隠すのに必死だった。

—なんだよいきなり。
こんなこと訊いてくるなんてこいつらしくないな。

—別にいいじゃない。私がそんなこと訊いちゃダメなの？
あいつは怒りっぽい奴だった。会話とかで気にくわないことがあるとすぐに歩み寄ってきて、火のように顔を赤くして怒るような奴だ。でも、そんな怒るあいつを、今までかわいいと感じてたのも事実だ。

—ダメなんて言ってねぇよ。なんでそんなことをいきなり訊くんだよ？
やっぱりなんか変だ。

—なんでだっていいじゃない。で、好きな人はいるの？
なんでしつこく訊いてくるんだ？まさか、こいつ俺のことが…。

—お前には関係ないだろ！
ま、まさかなぁ。こいつがそんな…、あるわけないよなぁ。

—ケチ！あぁ、私の愛が伝わる確率はどのくらいなのかなぁ？
やべぇ、腹黒い奴だと思われたかなぁ。

—ケチって言われてもなぁ…。
どうしよう。なんかあいつとの間に微妙なspaceを感じるし…。

—私とあの人を結ぶ赤い糸はあるのかなぁ。
えっ？あのトって誰だ？

—あの人って誰だよ？
やべっ。思ったことをそのまま口に出しちまった。

—え？それは…
・・・

つづく？

Monday

高校生のときは、ずっと片思いだった子に告白することができなかったほど、僕はチキンだった。大学にすべり込みで入った僕は、第一志望に受かったという達成感から目標をなくして廃人への道を一歩一歩進みつつあった。しかも理系の大学で女子が少ないと知っていたから、内気な自分は恋愛なんてできないと思っていたし、自分と付き合ってくれる人なんているわけないと思っていた。

しかし、出会いは突然だった。部活のコンパの後、一通のメールが届いた。突然だったし内容は覚えてない。でも、

「女の子ってすごいマメなんだなぁ」

って思いながら当たり障りのない返信をした。それから数日、メールのやり取りが続いた。お互いの話をしたり、ぜんぜん関係のない話もした。最初は返信するだけだったのに、いつのまにか自分からメールを送って、彼女の返事を待つようになっていた。いつのまにか、彼女に惹かれている自分がいた。仲のいい男友達に、

「デートに誘っちゃえよ」

って言われて、断られてもいいと思いながら、だめもとで、

「映画みにいかない？」

と誘ってみたら、

「授業あるからおわったあとでもいい？」

と返事が来た。すごく、うれしかったし、信じられなかった。どこ行こうかとか考えてるともう、デート当日の朝だった。周りから見て、自分は1日中そわそわしてたらしい。友達には、

「お前今日でーとなんだろ？昼飯おごれよ。」

とわけのわからないことを言われて、昼飯をおごる羽目になった。でも、もうそんなことどうでもよくて、1日中デートのことで頭がいっぱいだった。自分の授業が終わって待っていると、

「授業終わった！」

ってメールが来た。待ち合わせ場所に行って、ついにデートが始まった。自分は決心していた。今日告白するって。でもこの計画は消えてなくなってしまった。見たい映画がやってなかった。自分は何度も謝った。

「いいよ、気にしなくて。ご飯でも食べよっ！」

って言ってくれた。本当にうれしかった。それから、レストランで夕飯を食べて、たのしくおしゃべりをした。でも、結局その日告白はできなかった。

それから数日して、自分は告白しようと決心した。

「この前、言い忘れたことがあるんだけど、電話していい？」

返事が返ってきたときには家族はみんな寝ていた。

「いいよ！」

おそるおそる震える指でダイヤルした。

「もしもし？夜遅くに電話してごめんね。」

「ぜんぜんいいよ、」

「なんで、電話したかわかる？」

「ううん。何？」

「実は、この前言い忘れたことがあるんだけど、僕と付き合ってください」

「・・・わたしでよければ。よろしくね」

「ありがとう！これからもよろしくね。じゃぁもう遅いから、おやすみ・・・。」

「おやすみ。」

日付はもうとっくに変わっていて、月曜日になっていた。

愛の力は万全の巨神兵に匹敵する

おばあさん:ええっ?それってどういうことだＹＯ!かぐや姫?も、もう一度言ってごらんＹＯ?

かぐや姫:ごめんなさいおばあさん。私は月に帰らなければならないんだＹＯ！（あ、うつった）

天皇:え、マジで?かぐや姫月に帰っちゃうの?**2チャンの情報だと思って油断してたわ・・。**

忍者:なんか明日お迎えが来るらしいＹＯ?（あ、うつった）

天皇:うーん、**自衛隊は戦国時代に飛ばされちゃって帰ってこんし・・。やっぱこういうのはアメリカとかに頼むべきだよね?よし決めた！**

月の兵:**戦闘力たったの5・・・。クズが。**

アメリカ軍:**グリリンのことかー!!**

次の日、アメリカ軍の攻撃もむなしくかぐや姫は月に連れて行かれちゃいました。経緯はページの都合で省きます（笑）。天皇は**ヤフオクで落札したニンバス2000に乗ってかぐや姫を取り返しに行きました。**

天皇:**イナーシャルドリフトオオオ！**

天皇は見事なドリフトで迫り来る小惑星群を交わしたりいなしたりして、ついに月に着きました（月だけに）で、色々な偶然が重なって、うまいこと姫を助け出すことが出来ました。その日の天皇は今までの人生で一番（月だけに）ついていたのです。

天皇:**ここもじき腐海に沈む。**地球に帰ろう。かぐや姫。

かぐや姫:地球に帰っても追われるだけ。（**王蟲に**）月でおじいさんとおばあさん呼んで暮らしましょ?**うさぎ肉はうまいわよ?**

天皇:うん、いいよ。**うさぎ肉はうまいしね。**

三人は月でうさぎ肉をたらふく食い、わりと幸せに暮らしました。（おじいさんは**ＤＳの脳トレに夢中だったので置いてきました**）

NORA

その日、僕は祖母の家を訪ねた。
荒れ果てた部屋のベッドの上で苦痛に耐えているのを見て、僕は
「生きること」と「生きていること」の違いを思い知らされた。
でも彼女は、そんな苦痛の中でも、ただひたすら安らかな眠りを願い
続けていた。そして僕も願っていた。せめて彼女が長く苦しまず、
安らかな眠りにつけることを。

そうして僕は気づかされた、彼女が今まで僕に何を伝えたかったのか。
ただ当たり前のことが、どれだけ大切なのか。健康に生きること、愛
する人がそばにいることの喜び。彼女は僕に教えるために一生を費や
してしまったが、それで僕はようやく気づいた。
僕はとても悔やんだ。彼女と一緒にすごした日々もあったけど、
それは決して長くはなかった。

彼女が亡くなったとき、僕はそれほど泣かなかった。
悲しみより、後悔の気持ちが強かった。できればもう一度会いたい。
またいつか会えると信じたかった。たとえ無理だと分かっていても、
ただそう信じ続けたかった。

たった一度でいい。またいつかどこかで会いたい。
ただ一言、謝りたかった。自分が今まで気づけなかったことに。

生きている間に伝えられなかった言葉、彼女に届くだろうか。
親愛と敬意を込めた呼び名とともに、伝えたい。

ノラ、愛してる。

蚊

夜の１１時、蚊の飛ぶ音で目が覚める。
蚊は僕の腕で必死に血を吸っていた。
僕はあえて蚊に血を吸わせる。
血を吸いすぎた蚊はその重さゆえに飛べなくなる。
その姿はとても切ない。

今日も僕らは水を飲み、空気を吸い、光を浴びる。
それらはすべて生きる上で欠かせないものだ。
なのに、いつからだろう。
いつの間にか当たり前と感じられるようになっていた。
それどころか、僕らの要求は増した。
緑を伐採し、石油を吸い上げ、あらゆるものを燃やす。
おかげで地球はひどい有様となってしまった。

僕らは地を吸いすぎた。
最初は自分の為としていたことかもしれない。
しかし、今ではそれが自分を困らせることとなっている。
飛ぶにははるかに重すぎる。
今の僕らはとても切ない。

なんでも適度な量がいい。
多すぎても少なすぎてもいけない。
地球に適度な愛を。

依存症

今日が楽しいもつまらないも
幸せも不幸も
悲しいも悲しくないも
辛いも辛くないも
全て貴方次第

携帯を肌身離さず持っているのも
新着問い合わせをしてしまうのも
来たメールを何度も読み返すのも
送った内容を後悔するのも
全て、全て貴方のせい

もう少し背が高かったら
もう少し美人だったら
もう少し素直だったら
貴方につり合う女性になれたかな
貴方にふりむいてもらえたかな

そんな健気なことを考えてた
ついこの前まで
でも、分かってしまったんだ

私がどれだけ愛していても
貴方は私を好きじゃないという事
私の存在が迷惑であるという事
私が鬱陶しいんだという事

いつも、いつでも
私には貴方の笑った顔しか浮かばない
けれども貴方は一度だって
私に笑いかけてくれたことなんてなかった

私は貴方の何を見てきたんだろう
愛しているというだけで
何も見えていなかったのかもしれない
何も分かろうとしていなかったのかもしれない

貴方の優しさに甘え
自分の都合のいいように考えて
ただの儚い夢を
現実と勘違いしていただけだった

夢は所詮夢であって
現実には成り得ない
この目の前に突きつけられた現実を
一時的に逃避できるだけのもの

私はどうすればいい？
貴方を愛してしまってから
どんどん自分の醜さが露になっていくんだ
どんどん自分が嫌いになっていくんだ

毎日がこんなにつまらないのも
こんなに不幸なのも
こんなに悲しいのも
こんなに辛いのも
全て、貴方を愛した私のせいだった

タバコ

夜
幼い子供は家で1人
不安にかられる

いない

辺りを見回す
背伸びをしてやっとドアノブに手をかける
明るい、空っぽの寝室

痛いほどの静寂

顔がゆがむ
にじむ涙

かかっていないベランダへの窓

開ける

初めて見た

闇夜に浮かぶ母の手に浮かぶ赤いともし火

父と母へ

いまここに生きていられるのは、あなたたちのおかげです。

今日までのこの１８年間に費やされたお金。
子育てのための労力と時間。
そして、精神的な負担。
どれほどのものだったでしょうか。

この歳になって、その大変さが少しわかってきました。

僕がもらった愛は、もはや測ることはできません。

今までもらった、この愛には、
どれだけがんばっても返すことはできないと思っています。

だから、僕は、
今までに僕が受け取ったものを、自分の子供へと渡していきたいと思います。

いままでありがとうございました。

どうか、あと少し見守っていてください。

いつまでも、お元気で。

少女裁判

「被告を、無罪とする」「被告を、懲役二年三ヶ月、執行猶予三年とする」「被告に、原告への金一五〇〇万円の支払いを命ずる」

抑揚のない声で厳粛な判決が下される。女性特有の高い声が、冷徹な法曹のイメージを増大させる。…今日だけで判決の確定した裁判は十を超える。その全てが機械によるものだ。

この国は法律なしには何もできない。無法領域に関しては役人は一層無能になる。切り札ともいえる裁判も所詮役人が行うものに過ぎない。国民の不満は次第に憤りや憎しみという、危険性を帯びた感情に変容していった。

そんな時勢に学会である発表がなされた。通称「裁判機械」。法律の条文をメインに各種の人間の経験則をプリインストールし、より人間らしい判断が可能な機械。用法はその名の通り、裁判を人間に変わって行うというものだ。具体的には裁判官の役割を果たし、〝人間の〟検察や弁護士が提出した資料を解析・統合し、事実の蓋然性及等により合理的に結論を下す。確実な結論が保障されているので、審理は一審のみ。〝機械裁判制度〟の概要である。

急遽有識者により会議が行われた。議題は勿論、制度の採用の当否である。この機械はかの〝チューリング・テスト〟(機械が知性を持つか判断するテスト)もクリアしており、そのため出席者のほぼ全員が採用に賛成した。ただ一人、著名な論理学者を除いて。

「機械が人間を裁くということは、機械に服従しているということだ。我々はあらゆる分野で機械を支配している。支配と服従を同一の客体に求めることは論理矛盾である…皆さん、裁判を機械に任せることは、知と理の二つの性で機械に敗北し、情愛による真の社会平和を放棄したのと同値です。人として悔しくないのですか」

彼の反論は僅かにしか形勢に寄与せず、最終的に多数の前に屈服した。結論がでると、役人の仕事とは思えないほど迅速に機械裁判の手続きが決定された。論理学者の「人として…」の下りが効いたのか、機械の容姿は少女のそれに変更された。女性は包容力があり、堅苦しくなく、反抗心も沸きにくい。論理学者にとっては最高に馬鹿げた理屈だった。

制度が実施されてからも、論理学者はあるときは原告、あるときは被告を弁護する建前で法廷に立ち、機械裁判の欠点を探していた。しかし幸か不幸か、裁判は完璧だった。判例を踏襲し、常識を逸脱しない適正な判決を下す。裁判を経るごとに機械の評価は挙がっていき、一年後には制度に反対するものは極少数になった。

ところがある事件を境に事態は急変する。機械裁判制度を廃止せよ、と訴え出た者が現れたのだ。訴え出たのは半年前民事裁判に負けた人物。彼は逆恨みから制度の執行人に制度の廃止を求めるという奇行をした。理由も「人の心を持たない機械が人間を裁くなんて間違っている」などという、取って付けた、今更の理由だった。誰もが同じ結果を予想していた。…しかし、彼女はそれを認めてしまった。彼女は他人事のように、こう宣告した。

「原告の請求を認容する。裁判機械を六箇月以内に破棄し、同機関内に機械裁判制度を廃止する」

この国では、死刑の場合は、判決から六箇月以内での執行が求められていた。

――彼女の〝死刑〟執行の日。執行は電気椅子で行われた。腕、脚、頭部、胸部の四箇所に電極をつなぎ、それぞれにある一定の電圧の電流を流す。人の悪意による攻撃を防ぐため、そうしないと破壊できないように彼女は創られていた。

論理学者は立会いを許された。彼は複雑な気分だった。彼は最後まで機械裁判制度を否定していたが、それは殆ど対面を保つ為の悪あがきであり、内心ではかなり肯定の方に心証が傾いていた。彼のもどかしさは、次第に一つの好奇心に転化した。すなわち、彼女がどうしてこのような〝自殺判決〟を出したのかという疑問である。

彼は問う。

「機械とはいえ、擬似的な人間性をを持っている。どうして壊れようと思ったのかね」

彼女は答える。

「私は…怖くなったのです。私が何でも決められることが。私には家族、恋人、親友がいない。愛する人がいないのです。愛し、愛されない者が、どうして他人の愛に干渉し、線引きをすることができるのでしょう。ただ一人孤立した者が、どうして全てのことを決められるのでしょうか」

不思議だった。彼には驚き一つ沸いてこない。

「…確信した。理解でない、確信だ。すでにわかりかけていたことが完璧にわかったんだ。君が今まで正しい判断を下せていた理由が、やっとわかった。それで…後悔はないのかい」

彼女は下を向いた。執行所は法廷より肌寒い。彼の質問はデータ量にしてたった数千キロバイトの、短い音声だ。なのに、彼女の要した計算時間は今までで最も長かった。ゆっくりと顔をあげ、静かに、弱々しい声で――呟いた。

「…すこし」

「愛」本選Ａブロック作品講評

１　愛の方程式　1位　13ポイント

いきなりインテグラル♪　いきなり首位！　おめでとう!!

愛を時間で積分すると、なるほどね。理系読者狙い撃ち、話題もはずんだようで何より。

人生とは何かを真剣に問い続けた（ほんとか？）今シーズンのAブロックのラストセッションを飾るにふさわしい、タメになる人生訓表紙でした。微積の時間に誕生したんだそうな（やはり）。

イチオシフレーズ：「∫愛ｄｔ」＝マンネリ　×７　と圧勝で、イチオシフレーズ大賞も受賞です。おめでとう。

２　愛と勇気　10位　2ポイント

バイバンキーン♪　でガラリ世界が変わります。

そっか、アンパンマンの世界を曹長に（←なんだこの変換は）、もとい荘重に語るとこんなふうになるんです、という仕掛けがきれいに成功しました。

チャチでお子様向けのうすっぺらな正義を笑い飛ばす気分を呼んで爽快痛快、がんばれバイキンマン……と読んで良いのですよね？

イチオシフレーズ：「バイバイキーン」×３

３　今年の漢字　12位　0ポイント

一転、きっちりマジメに。「今年は」と、あたかも年頭挨拶のよう。

明るい漢字の似合う年になるといいね。抑えめの筆致で静かに語ったところが、声高なアピールよりもかえってひたひたと沁みてきます。

４　リサイクルショップ　4位　11ポイント

出ました赤ずきん。それっぽいなあと読んでいって、「妹」が登場した途端、作者さんを確信しました。アタマ隠して〇〇隠さず。題材変えても、この筆達者な文体はそうそう隠せません。

処分品カートもあったりして、いろんな「物語」をいっぱい売っている――TSUTAYAみたいなレンタルショップのイメージで読みました。「愛嬌とか愛想」というラストが巧いなあ。

そんなお手軽愛@標準装備仕様もあったんだ、と虚を衝かれます。
　それにしても「黒」では純白衣裳の純愛、「愛」では使い古しのオンボロ愛を皮肉る、と人様の逆を行く赤ずきんちゃん、末永くお達者で。
　イチオシフレーズ：「大きさや歪み具合によって減額する場合がございます。」「ロリコン」

５　恋の予告編　3位　12ポイント

　お題を全部入れてみましたという回顧編。それがなくても、ころころコミカルなかわいらしさが楽しめます。小ワザとしあわせ感とのマリアージュがヒットしてベスト３入り、おめでとう！　ハッピーエンド希望。

６　Monday　6位　7ポイント

　うわーん、実話だろー、そうでなきゃ許さない！　という気分に誘います。
　全然技巧のない、まるで小学生作文のたどたどしさ。「あのねお母さん」と台所で語るようないっしょうけんめいさで一気にラストまで。
　それがかえって純愛を引き立たせる効果になって、イヤミなく読ませてくれます。愛、おそるべし。
　後日談：案の定、実話でした！　しかも、ごく最近のできごとなんだそうで、夏休みを前に、とてもとてもしあわせそうな作者さんでした。めでたしめでたし。

７　愛の力は万全の巨神兵に匹敵する　6位　7ポイント

　おそるべき愛は、ネタの海にまっしぐら。私は腐海にやられましたが、みなさまは？
　「あ、うつった」とか「月だけに」といった合いの手のはずみっぷりが楽しいです。
　昔話をアレンジするという手法はときどき見かけますが、これでもかとどっぷりネタ漬けにしたしつこさが、名古屋の味噌カツみたいで、こってりたらふくうさぎ肉（かわいそう）。夏バテ防止におひとつどうぞ。
　イチオシフレーズ：「クリリンのことか」

８　NORA　11位　1ポイント

　猫？　犬？　と思ってしまいました。じつは外国風女性名前でNORA、やっぱりおばあちゃんなんだそうな（作者さん談）。
　みんなが心配（ほんとか？）した女子トイレの翔太くん、こ

こまでちゃんと成長しましたよ、おめでとう、ということで。

９　蚊　1位　13ポイント

　ありきたりの「地球にやさしく」論とは異なって、蚊のせつない姿にあざやかにシンクロさせて、相似形としての人類の愚行。
　「血を吸う」⇒「地を吸う」なんて、他の文脈で出てきたら、とってもくだらないオヤジギャグなのに、この作品の中ではずしりと主張を支えるたくましい屋台骨となっています。
　シンプルに骨太に組み立ててあるから、最終段落の「適度」結論にふかーくうなづけた次第。重くないのに重い内容、まことにみごとな達成でした。前へ出ての実験結果報告付きのコメントも秀逸。首位、おめでとう!!!

１０　依存症　5位　9ポイント

　ひたすらな、いちずな、決して実らぬさだめの片恋。世界の中心が「貴方」になってしまったがゆえに抜け出せないアリジゴク。おんなごころ、直球で届けていただきました。
　とりわけ惹かれたのはタイトルです。一人称まっしぐらの本文を、ふわっと相対化して、どこか醒めた第三者視点で「しょうがないよねビョーキだもん」と括っているような。

１１　タバコ　8位　6ポイント

　最初は、せっかくのいいアイディアなのにタイトルでタネアカシしてもったいないな、なんて思ったのですが、再読して、ああ、幼心の不安と安堵を「赤いともし火」でくっきり印象づけたいために、オチの驚きは避けて、安心するに至るプロセスを見せたかったのかな、と思い直しました。どうでしょう？
　単語だけでぽっぽっと見せてゆく手法があざやかに成功しているのですが、それだけに最終行だけ、ちょっとくどいかな。「闇夜に浮かぶ」はなくてもわかるので削って、「初めて見た／母の手に浮かぶ赤いともし火」とすっきり終わらせると、ふわっと心が明るくなりませんか。
　ひごろ憎まれ役しか割り当てられないタバコくんに、ともし火としての出番を作ってあげた配慮も心にくい。

１２　父と母へ　8位　6ポイント

　とても恥ずかしくて面と向かっては言えない親へのキモチ。
　技巧の全くない文章だから、まぶしいくらいまっすぐに伝わってきます。
　人生を問い続けた（ほんとか）Aブロックならではの原点回帰のような読み納めでした。

少女裁判

　作者unknownゆえに本選行きを逃しましたが、「ラスト１行にぞくぞくする」などお茶会にて絶賛の嵐。このまま埋もれさせるには、あまりにあまりに惜しいということで、ひそやかにここにお披露目です。
　機械に人間を裁いてもらう。うん、いいかも！　に至るまで、そして制度が施行されてからの展開について、新聞記事風というのでしょうか、乾いた描写でたんたんと見せていって、さいごに「孤立した者」の悲しみを大写しにする。緻密な積み重ねがあってこそ、ぐうっとふくらんでゆく感興。かぼそく呟かれた「…すこし」というセリフの突きつけてくるものの巨大さに立ちすくみつつ、大コラムランド夏の陣、大団円です。
　熱い参加をありがとう！　よい夏休みを!!